

平成 19 年度第 3 回丸子地域協議会会議録

日時 平成 19 年 6 月 27 日 午後 1 時 30 分から午後 4 時 08 分まで

会場 丸子地域自治センター3 階第 2 会議室

出席委員（19 名）

阿原孝之委員、生田淳一委員、石子美奈委員、浦芳照委員、片桐久委員、倉石史子委員、齋藤繁子委員、桜井照夫委員、櫻井誠委員、笹沢暁委員、砂子守委員、高山静江委員、武井純雄委員、土屋猶子委員、中西国子委員、中村貢委員、成澤啓輔委員、成澤みつ子委員、樋沢良一委員

欠席委員（1 名）

柳原幸生委員

市側出席者

小林丸子地域自治センター長、佐藤丸子自治センター次長、柳沢市民生活課長、下村健康福祉課長、横井課長補佐、中村主査、澤山主事、永井主事、

1 開会（佐藤丸子自治センター次長）

配付資料の説明と欠席委員の報告

2 会長あいさつ（片桐会長）

皆さんにおかれましては、まちづくり方針のアンケートについてご回答をいただきましてありがとうございました。本日今後の協議内容について方向性を決めていけたらというふうに思っているところでございます。

先日上田市議会の分権型地方自治研究委員会の皆さんと 9 つの協議会の正副会長とで会議がございました。齋藤副会長と出席いたしました。その中で各協議会の現況の報告がございましたけれども、やはり丸子と同じようになかなか方向性が定まらないということで、苦慮していることを伺いました。先日の 6 月議会の一般質問におきまして本日傍聴していただいております久保田議員からこの協議会についての質問をしていただきました。その中で母袋市長からは分権社会推進の上で核となる重要な役割だと、多少時間は要しても新生上田市にふさわしい上田市版を構築して地域経営の礎にしたいという言葉がございました。なかなか母袋市長の思うようにいっていないというのが現状でございますけれども、ただこの言葉の中で多少時間は要するという言葉がございましたから、私どもの任期そんなに長くはございませんから私少しあせりもございましたけれども、少し気が楽になったのかなという思いもございます。いずれにしましてもこの協議会の任期の中で一つでもいいからこの協議会としても方向性を見出していけたらというように思っています。どうか本日皆さんのアンケート結果を基にしまして今後のあり方を検討してきたいと思っております。よろしく願いいたします。

3 会議事項

（1）会議の進め方について

丸子地域で検討すべき内容に関するアンケート調査について
今後の協議内容について

片桐会長 それでは会議事項に入ります。会議の進め方について、丸子地域で検

討すべき内容に関するアンケート調査について事務局説明をお願いします。

横井課長補佐 事前送付したアンケートの集計結果の傾向について説明。7項目の中でそれぞれどの項目を優先したらよいかということで順位付けをしていただきました。その中で優先順位1位をつけた人が多い項目ということで、資料の「まちづくり方針」の下に1位を選んだ方何人と記載してあります。一番多かったのが「自然環境の保全と人々が共生できる地域づくり」で10人の方が1位をつけております。続きまして「軽快な交通ネットワークの整備」の項目が5人。「健康×観光×自然＝交流人口の拡大」が1人。「生涯学習活動拠点の充実と新図書館の整備」が1人。「未来型産業の振興と起業マインドの育成」が1人。すべて重要な案件ですが、1位がつかなくて2位、3位という順位をつけたものは「新たな産業ブランドの創造」と「可能性を秘めた雇用・居住・福祉の活動拠点」となっています。それと合わせて、資料の後ろのページを見ていただきたいと思えます。進め方についてのご意見ということで委員からご意見をいただいております。委員からは協議会の委員を2グループに分けて協議したらどうかというようなご意見。委員からは、地域自治センター長の権限、予算等を強化することについて論議が必要ではないかというようなご意見が出ております。そして委員から5月22日に会長あてに出ております。「検討すべき内容に関するアンケート調査について(意見)」ということで、この中で再度会議の進め方について検討願いますということで から までこれについて審議事項を決定してスケジュールを作成するというご提案が出ております。委員のご提案について、事務局としてこのように考えております。 のことは地域まちづくり方針の取組みということで、それぞれ皆さんからアンケートをいただきましたが、それ以外の項目については、随時案件が出てきた中で取り上げていったらどうか。具体的に項目が入らなくても案件が出てきた場合にはこちらから議題として挙げて、議論、協議をいただいたらどうかと事務局としては捉えております。そういうことで、アンケート結果の内容と、ご意見等3名の委員から改めて会議の進め方について出ておりますので、方向性を出していただければと思います。

委員 アンケート調査の意見ということで、断片的に書いておりますので、中身を再度意見として言わせていただきますと、私も7項目につきましては将来的に丸子地域の展望状況を見た中では重要なことだと思えます。ただし、予算的な内容とスケジュール、それと7項目を見ますとソフト的なものとハード的なものでございまして、特にハード的なもの市全体でやる事業、県でやる事業、国でやる事業と非常に段階的に長期展望の必要な事業が入ってくるわけです。総合計画でも前半4年、後半4年というふうに考えられると思えます。予算とかスケジュールとかきちんとして決めてやればある程度の将来的な内容も見えますが、254号と152号のバイパスといった10年20年経っても実現できないような内容も今現在残されております。地域協議会が今後、もし継続するようでしたら、20年30年後になっても最初第1回にやった内容がまだ実現されていないようなことにならないように、最初からよく計画段階を見直してやっていただいたほうが私はより実現の強いものになるのではということで意見を出したわけです。そういった中身で補足だけさせていただきます。

片桐会長 それでは委員の意見は事務局の案でよろしいでしょうか。

委員 よろしいです。ただし今言ったように、スケジュールとか予算的な内容、それと国とか県との協議状況をどのように今後進めていくか、それと委員から前回意見がされました議員との協働、住民との協働を一緒にからめてそういう内容

で今後検討に入るんだということも含めて検討していただきたいです。

委員 事前に資料をいただいたんですが、この中で会長宛に上から4行目に「先走った短絡的な結果であります」という表現があります。この会議は会長がすべてを決めているわけではありませんので、こういった表現は削除していただきたいと思います。

片桐会長 こういうことが入っていますが、確かに結論を早く急いだせいもありまして、議論が不足だったと私も反省しておりますから、これはこのままでということをご理解いただきたいと思います。

委員 私も意見を出しておいたんですが、せっかく7項目を選んだわけですね、これを長期化するからさておいてという形にやりますと、また屋上部のような形で宙に浮いちゃいます。せっかく出た問題を項目の順序で1から4、5から7という形で分けたんですが、この協議会で連動性のあるものについては区分けして、ここを中心に検討すべきじゃないか。ここで出てくる問題が予算の問題だとか自治センターの権限の問題だとかそういうものも出てくると思うんですね。ですからそんな形でやるべきじゃないかと、それにはひとつ大項目が必要だということで私がここに掲げたのは、どこの地域も高齢化、少子化という形で人口は増えない、増えないということになれば人を集めること、集めるってことになる、環境整備をしなければいけない、ということが7項目の中に入っているんですね。東大の月尾 嘉男教授の話で観光客6人迎え入れると定住人口1人増やす経済効果があるという話がありまして、すばらしい話だと記憶しているんですが、もう少し人を集める算段をみんなで作るべきじゃないか。それにはせっかく与えられたこの環境っていうものを肉付けしてここをどうしたらどうだ、あそこをどうしたらどうだということこの地域協議会で検討していくとこれが丸子地域ならではの検討材料になるんじゃないかとこんな意味で書いたんですが、以上です。

委員 前回出席できなくて、書面の形でお願い申し上げました。議事録も読ませていただきまして皆様のご意見も読ませていただきました。それで、今委員からお話がありましたように、せっかく決まったこの7項目を中心として具体的な議論を分けてピックアップして、できれば分科会のような形を作って具体的に議論を進めていただきたいと私は思っています。提案させていただいた書類の意図ですけれども、書かせていただいた前提として、地域協議会という組織そのものが、どういう役割を担っていくかってことがまだ決まっていない、しくみとしてまだ決まってないということが私の中にはあります。それをこの会で決めなければいけないということだと思えます。一番この地域協議会が果たすべき最重要目標というものが、この丸子地域をこうしていきたいんだという地域の意志、その合意を作ることが一番の重要なことだと思っています。もちろん優先順位を含めてそういったことを決めていくわけですが、それは非常に大変な作業になります、大変な中身のことであります。だから簡単にできることではないんですけれども、ですからこそ、地域の意志を作るために、そのしくみを工夫することがこの協議会では課せられているのではないかと私は理解しています。そういった意味で地域の意志をどう作っていくのか、という流れの中では今までは自治会の会長さんを中心に各自治会でこうしたいああしたいと出てきたわけですが、それを連動させて例えば丸子地域全体でこういう地域にしたいんだというような住民合意をどう作っていくかということに関しては、自治会長1人に任せるには大変な作業であって、それを任期のある中でやってくれというのはなかなかできないということを私も実感しています。それからじゃ議員さんにそれをお願い

するのかという話しになりますと、もちろん議員さん大変ご苦労いただいて地域選出の議員さんは特にそうですが、考えてくださっていますが、やはり市全体を考えるお立場ですので、全部お任せするわけにいかない。じゃ行政におまかせするのか、それは違うというのが住民自治の考えであります。そういった意味で行政と地域住民と議会、前回のお話しで対立軸という表現もございましたが、私は対立軸というふうには考えてませんで、お話しにもありましたように、全部が輪になって協働していく姿を作っていくにはどうしたらよいか提案させていただきたいと思っています。それで7項目も出ましたけれども具体的な議論を進めていくにあたりまして、行政はもちろんですが、地域住民と議会と協働して話しを共有するそういった具体的な場を設けるということも、しくみづくりとして大事だということ考えています。例えばですが、7項目を中心とした形で重点項目を抽出しそれごとの分科会を作るのであれば、その内容をどう住民と共有していくのか。オープンにしていくことも必要ですし、どういうルートで働きかけていくのかということをお話の中で議論していただければと思っています。それから、議会の皆さんとどうやっていくのか、この前のような定期的な懇談会のしくみを作っていくのか、そういったしくみづくりも含めて議論していただけたらと思っております。前回そういうことの意図で提案させていただきました。

片桐会長 今回具体的にどの項目から地域協議会として議論していったらいいのかということをお話の中で具体的に上げていただければありがたいと思います。どのようにしていったらいいか皆さんで議論していただきたいと思います。

委員 先ほど事務局からアンケート結果を説明していただきました。したがって、せっかくアンケート調査をして結果が出たわけですから、そういう意見の順に従ってやっていったらどうかと私は思います。

片桐会長 ほかにどうでしょうか。

委員 このアンケート結果の1位というのを見ましたら、丸子地域まちづくり方針の中で、「人材育成と地域づくり」というのを10人が1位を選んでます。先ほど委員からも意見がありました、地域づくりと人づくりというのはすごく関連していますし、住民の人達の声の声をどうやって上げたらいいかというような住民自治とは何かということだと思っておりますので、できればそこへ焦点をあててしばらく皆さんがどういうお考えをなさっているのかをざくばらんに話し合ったらいいでしょうか。私今までいろいろなところへ出て感じているんですけども、なかなか情報公開もみなさん関心を持ってお読みになってないですね。行政側はかなりの情報を公開しているんですけども、何か決まってからそれについて調べる、そうじゃなくて決まらなければいけない過程でいろいろな情報が公開されているものを、どうやって市民の方たちに知らしめて、それについて私はこう考えますよということをお話して吸い上げるか、先ほど委員がおっしゃられた仕組みだろと思うんです。どこへどうやって働きかけたらいいのかっていうことがわからないで、結局結果が出てから、こうではない、ああではないといって何とかならないのって言われても、でももうどうしようもないですよ、今のしくみの中では。どこのところで一番、地域協議会の力を発揮するのかということをお話して、ざくばらんに、私はこう考えますということをお話で皆さんが議論なさったらいいでしょうかと思います。それともう一点ですが、このごろ会長と行きました地域協議会連絡会議の中でもたぶん、委員の皆さん一人一人地域協議会ってどういうものかっていうイメージがきちっとわいてないと思うんです。たぶん私とも会長とも違うし、委員とも違うし、皆さん全部違うと思うんです。地域協議

会に対するイメージ、住民の方たちから結構意見をいただく中で、丸子にとって地域協議会は期待がものすごく大きいんですね。こんなことできるでしょと言われることもありますので、そのへんのところを皆さんどういうイメージをお持ちになられて、自分がどういうことで地域協議会の委員として考えているのか、そういうこともやっぱりそれぞれざっくばらんに話し合ってお互いに認識しあったほうが良いのではないかと考えます。

片桐会長 それぞれの皆さんから意見をいただきたいと思うんですが、遠慮なくどんなことでもよろしいですからご意見をいただければと思います。

委員 そういう議論を重ねてきてこの7つにまとめた結果なんですよ。そういういろいろな事、何を優先してやるかということを経験して進めてきた結果が7つの項目の項目に集約されているんですよ。したがってもうその時点のそういう考えでなくて、7つ決まったことに対してどう進めていくかというふうな時期に来ていると思います。この7つの項目に集約されているんです。

委員 私もそう思うんです。せっかく7項目をやって、これを棚上げしておいて違う焦点を当てるといのは問題がありはしないか。これをやってつづけているうちに、いろいろな派生的なこともこの中に包括されてくるのではないか。せっかく出した問題ですよ、これに順序も付けたんですが、優先度どうやってつけたらいいか自分でも悩むくらいに、どれも重要項目ですよ。ですから今委員が言われるように、せっかく出した問題をもう少し大きくくりにして検討していったほうが良いのではないかと考えます。

委員 ちょっと私の言い方がまずかったかも知れませんが、今申し上げましたのは1位をつけられた10の方が、ここが一番大事ではないかということが出ています。その中で、委員がおっしゃられたように住民と住民自治をどうやって育てるかっていうことだろうと思うんですね、仕組みづくりだとか。そういうことに焦点をあてたらどうでしょうか。その中でいろいろな議論が出てきてざっくばらんに話し合っていると、自然に人づくりとはどういうことなのか、地域づくりとはどういうことなのかということが浮き上がってくるのではないかと考えて、先ほどのアンケートの中でまず1位を選んだ方が10人いる、これを尊重して議論をなさたらいいかというのが私の意見です。

委員 地域協議会というのは、その地域が住みよくなるための検討する会だと私は解釈しています。地域が良くなるというのは何かというと、7項目に上げてあることが実現すればすばらしい地域になると私は感じます。そういう中でさっき委員が言われたように、7項目を実現するためにどんな手法でやったらいいかということを経験しながら、進めていくのが良いのではないかと。進め方としては私も順位づけはしたくなかったが順位付けをしました。そういう中で重要課題とされるような1番2番と上がったことを分科会に分かれながら分科会をやり全体会をやり、その繰り返しの中で実現に向けていろんな方策を考えていくということを実施したらいいと思うんです。

片桐会長 この7項目を全部やるというわけにはいきませんので、できたら焦点を絞って、これとこれについてみんな協議していききたいという、とりあえずの協議の仕方として、絞っていただけたらありがたいと思います。

委員 とりあえず手のつけられるものからということですか。

片桐会長 例えば優先順位の多かった順から協議をすることによって具体的な意見を出していただければありがたいと思います。どれも重要な項目ですから皆さんとすれば難しいかなとは思いますが、それともこういう方法ではなくて、この

アンケートに出てきたものを分科会に分けてやるというような案があるでしょうけれども、その辺はどうでしょうか。

委員 今委員からお話がありましたように、この地域協議会はこの地域をよくするための会だとおっしゃるとおりだと思います。それを果たすにはどうすれば良いかと考えるときに、全部上がってきている項目に対して私達が具体的に指示したり動いたり全部にとっかかるというわけにはいきません。ですから私たちの役目としては、そういった問題に関して地域としてこっちへ行こうよという投げかけをしながら、住民の方向性を作っていくことだと思うんですね。そういう方向性をつくりながら、それを具体的に実現し解決するにはこの団体、自治体、あるいは議会、機関の方々に動いてもらう、相談しなければいけないといったことが具体的なことがでてくると思うので、具体的に会として動いていくのは各機関であり団体であり自治会でありさまざまな団体だと思っています。イメージとしては、私はこの協議会というのは方向づくり、意志決定に対してどれだけ地域の人達を引っ張られるか、というか地域の人達とあるいは議会コミュニケーションがとれるかに焦点をいつもあててずらしてはいけないと思います。それでもただ漠然と住民とコミュニケーション何だかんだと言っても意味がありませんので、その投げかけとして先ほど委員からお話しもありましたけれども、問題が起き上がってきたらどうしましょうじゃなくて、あらかじめ7つの重要な項目がある、その中で私達がピックアップした重要な項目がある、10年後20年後を考えたとき、今から仕込んでおかなければならないから、こういうことについて、どうかしませんかというネタとして、皆さんから上げていただいたこのテーマを使うというのがイメージです。これを見させていただくと、10人が1位に上げた「自然環境を含めた地域の共生」という項目をどう実現していくのかと、しくみづくりも関わってくると思うんですが、やはり優先順位が高いと思っていますし、また1位で多かったのが「交通網の整備」というのがあると思うんですが、あとは2位で多かった「交流人口の拡大」をどうしていくのかという部分もあります。いくつに分けたら良いのか、3つに分けたらよいのか、4つに分けたらよいのかは良く分かりませんが、それは具体的に皆さんが考えながら、テーマを作って、このテーマでどうですか、私達はこっちの方向で行きたいと思うけれども皆さんどうですかということ地域や議会と行政と議論していくそういう具体的な場を作ることでもしてもらいたいと思います。具体的に言うところから抽出されたテーマをいくつか絞って、それごとに分科会をつくりそこで協議会としてこれをもんだらどうだという一つのとっかかりを作り上げて、それをもって地域住民、議会と議論を重ねていくそういう場を作っていく、それを同時進行でやっていったらどうか思うんですがいかがでしょうか。

片桐会長 委員の分科会に分けてという意見もございました。このところで皆さんにお聞きしたいんですけど、分科会に分けてやるということになるとおのずとテーマも違ってくるのかなと、一つの分科会で7項目のうち2つというやり方もあるでしょうから、分科会でいくのが良いという意見に対してはどうでしょうか。それとも皆さんから出していただいた項目の中から全員で討議をしていくと、例えば2つぐらいに絞って討議をしていくというやり方と2通りあると思います。

委員 1位に上げた10人というのがあるわけですけど、私は違うところへ入れたんですが、1位に絞って全員でやったほうが良いと思うんですね。これに関連したものが交通網の中に入ってくると思うんです。これをやりながら、ほか

の意見では住民にしても交通網が入るだろうし企業でも入ってくれば、丸子のブランドをつくるにしても企業で、住みよい地域丸子へ行けば良いブランド品があるだとか、そんなことも皆関連してくると思うんですね。一つ絞ればそれに対して全員で問題点を挙げてやっていくと、そうすればほかの項目にも関連したものが結構出てくると思うんですけれども、私はそういう意見です。

委員 私も1位になった項目が地域住民といろいろな団体と関わりやすく進めていかれる一番のものではないかと思っています。住民と私達と身近に、委員の中にも花を育てるだとか里山とかいろいろな活動をなさっている方がいると思うので、そういうところからでも広げていける、子どもを巻き込んで活動が一番しやすいのではないかと思って私もこれを1位にあげてみました。分科会に分かれるとやはり、時間的な余裕がなくなってしまうのではないかと思うので、一つのもので大きくやっていったほうが良いのではないかと思います。

委員 賛成です。1番の問題をみんなで話し合っていたほうが時間的にも良いと思います。

委員 私も全体的が良いと思います。委員の中は各団体長もおられます。自分のやってもらいたいという項目もこのほかにたくさんあるわけです。それも大事にしていけないといけないと思います。だけどこの際、話しを進めていくには、アンケート調査の1位自然環境の10人と2番目の交通ネットワークの整備5人の2つを重点的にやっていくのが良いのかなと思います。関連することもあるということですので、全体でどうでしょうか。

委員 総論的には賛成です。私も当初は分科会でと考えていたんですが、時間的余裕もありませんし、少数意見と若干食い違ってくることも考えられます。全体で一つのテーマを絞って、試行的に何かできればやっていったほうがよろしいのではないかと思います。

委員 この20人で会議をやるというのは非常に大変だと思います。誰かが1分話しをしている間は、ほかの人は20分聞いていなければいけないという問題もあります。あと技術的にも大変なので、これを半分に割って、一つのところに10人、もう一つのところに10人というような形でやっていったほうが逆に効率が良いのではないかと思います。それから7項目を見ると、どこかでみな繋がっています。切り口はどこかはわかりませんが、すべては最終的には繋がっているものと思っています。自然環境の問題は重要なことですので、一つグループをあてて、もう一つは皆さんから希望をとって、ぜひこの項目をやりたいという方があればもう一つのグループでということ。ですから2つくらい。

委員 私も全体でやるよりも2つに分かれて検討したほうが早くまとまるのではないかと考えます。

委員 20人という大勢ではなかなか発言ができないので、それよりも2つに分けて、1位の問題を2つに分けてでも良いから、早く問題を出してどういう方向にもっていくかという話し合いをしていったほうが効率良いと思います。

委員 話し合いの手法ですが、20人でやるというのは結構難しいと思います。こういう意見集約をするのにワークショップ形式というのがあります。何人かで話し合って問題点を決めて、これについてどう考えるのか、意見が同じ方やちょっと違う方といろいろな角度があります。行政の方でそれ専門にワークショップをやっている方いらっしゃいませんか。リーダーが必要です。こういうやり方をやっていくとだんだん問題点が浮き上がっていくという手法です。

委員 私もちょうくちよく会議に行ってよくやるんですが、2つに分ければ2つの

問題をではなくて、一つの問題を5人なら5人で4か所に分かれて話しをするというワークショップ方式だっていいんですよ。2つに分ければ、違う問題そっちはAという問題、こっちはBという問題でなくて、Aという問題を10人なら10人ずつで同じように討議を分けてやるとか、5人なら5人ずつ分けて、Aの問題を4グループで話して、それをみんなで寄って集約するという方式でも良いと思うんですよ。どちらにしても20人で、さっき委員が言われたように、ただ人の言っていることをじいーっと聞いているというようなのは大変だと思います。

委員 どなたか専門的にやってらっしゃる方いますか。一つの手法、技術ですからね。そういう技術のある方がいらっしゃればできると思うんですけども。

佐藤次長 ワークショップの手法というお話をいただきまして、職員でも研修会がありまして、そういう職員もいるわけですが、一つのテーマを何人かの小グループに分けて話し合っていくという極めて有効な手法ではないかと感じています。ただ専門の職員を配置しなくても、3つほどのルールを守れば、皆さん自身ができることです。「人の意見を否定しない」「思いついたことは何でもしゃべる」「肩書き社会的立場を排除する」といったルールの中で、議論を積み上げていくとやがて一つの方向が見えてくるという手法であります。専門家は入れる必要はなく、そういったルールを確認さえすれば良いのではないかと思います。

委員 私は基本的には前回も申し上げましたけれど、この7項目について1か月に一件ずつやるべきだという考え方です。どれも重要な問題だと思います。本来はそうしたいと思うんですが、そうやっていきますと来年の1月か2月になってしまいます。時間的にもないということで、1つか2つくらい絞って半分ぐらいに分けて、ワークショップなんて気の利いたことやらなくていいですから、自由に意見を出し合ってトークしていただいていた方がいいと思います。箱物、公園、道路という大きなハードの部分の部分を言ったって始まりませんので、もっとそれよりも細かいことを皆さんが議論して事を起こすということを行行政も期待していると思います。そういう方向で進めていただいたらどうですか。

片桐会長 ほかにはどうでしょうか。本日の会議大変重要でございますので、ぜひとも皆さんの意見をもっと出していただいて方向性を出したいと思います。そのことが地域協議会の今後のあり方の一つ、一歩進んでいけるのかなという感じを持っています。

委員 一つの問題を20人で共通で持ったほうがいいのかと思ったのと、それから20人の皆さんなかなか意見が言えないのもあって、そういうことで迷ったんですが、先ほど同じ共通した問題を分けて話し合っていくという意見が出たので、それが一番良いのではないかと思います。やはり20人同じ問題を共通しなければいけないと思うんです。その問題を全員で話し合って全員で決めるというふうにしなれば、これを半分にして違うところでこういうふうになりましたとなると、例えば協議会を半分にする10人の意見で決まったことになってしまいます。やはり20人が統一した議題で話しをして決めていくというのが良いと思います。項目につきましては、ここに出ているやっぱり一番多かったものをとっかかりにしてやれば良いのではないかと思います。環境問題が大きく叫ばれていますので、自然環境、環境問題は解決しなければ日本の未来はないといわれていますので、解決に向かってやっていくべきだと思います。

委員 私は基本的には委員がおっしゃったように、この7つのそれぞれに優先順位をつけること事態は好ましいと思っていません。ただ時間も時間がないということになれば、問題が多すぎれば結果が出ないので、絞ることは大事だと思います。

ただ皆さんがおっしゃっている1位が一番多いのを1番にして良いのか、そのところが私にはちょっとわからないので、さっきから悩んでいるんですけど、絞るのであれば、何を共通問題にするかから検討しなければ、多いということと、それから先を考えて早めに手を打たなければならないということが、一致するかどうか私にはいたしかねるので、そこで迷っています。

委員 私もやはり分けて話し合ったほうが話しやすいと思うんです、少人数になったほうが。今皆さんの話しをお聞きして、分けた上で一つの議題を話し合うのがいいのかなと思います。議題を選ぶのが迷いますが、アンケートをせっかく取ったんですから、1位が多かったのをやはり選ぶべきかなと思います。分けた上で一つの議題っていうのが、今お聞きして一番良い方法じゃないかなと思っています。

委員 正直いって今答えが自分の中で出ないです。というのは、委員が言ったように1位を選んだ方が10人、それを本当にそれだけで決定して良いのか、リンクする部分がいっぱいありますから、そこはあまり心配ないのかも知れませんが、一つのテーマを例えば2つ3つのグループでワークショップ方式でやると、最終集約したものが必ずしも同じもので出てくるとは限らないので、いろんな見方ができるのではないかとということがあって、それは全体で話すのもいいけれども、ワークショップ方式もいいんじゃないかなと思います。ただその時のテーマとして、1位を選んだ10人の方たちの項目で良いのか、私の中ではこれでいいわという結論は出ていません。

片桐会長 ちょっとしばらく休憩をしたいと思います。

休 憩 14:25 から 14:35 まで

片桐会長 お揃いですので再開したいと思います。本日これで方向付けをいただきますと、丸子地域協議会として大きな前進だと思います。ぜひとも慎重な意見をいただいて、次回の具体的な審議内容に入れるようにしたいと思いますので、もう少し皆様の意見をお出しいただきたいと思います。

委員 この協議会は、いわゆるこの地域をいかにしたら活力ある地域にするか、これが大きな目的であると思います。先ほど委員から、その源は人口増であるというふうに言われましてたけれども、全くそのとおりだと考えております。この7つの項目を見ますと、人口増をはかるために、すべて繋がっているような気がしています。みんな全部、どの項目をとっても行き着くところは活力あるまちづくり地域づくり、いわゆる人口増を図るためのものだと考えられます。したがって、アンケートの結果の皆さんが多い意見をとっても、あるいは一番意見の少なかったところをとっても、人口増をはかるためのものにすべて繋がっておりますので、私とすればどっちかとすればアンケート結果を重視して多いほうを取っていただければと、すべてこれはどの項目に関しても共通しているのではないかと考えています。

委員 委員の前半は賛成ですが、後半の一項目に絞っちゃうという形は私どうも賛成しかねるんです。というのは、じゃあとはどうするんだという話しになっちゃうんですね。せっかく7項目出したものを、もう少し大きくくりにして、目的は地域の活性化ということで、交流人口をもっと増やすための大きなお題目にこれをぶら下げて、2つに分けて2グループで会長と副会長で両方へ所属してもらってまとめていき、2回に1回ぐらいにみんな話合っていく、せっかく出され

た項目を大事にしていかなければいけないんじゃないかなと思います。

片桐会長 ただ今の委員からの指摘のとおりで、アンケートをお願いするときに、取り組みやすさ等を配慮していただき優先度の高いものから3つあげていただきたいという願いをしていますから、そういうふうに解釈いたしまして、優先順位の高いほうから取り組んでいったらいいんじゃないかという意見のほうが多いように感じますが、そのへんはどうでしょう。

委員 ただそうすると3項目が決まって、残った4項目をどうしたのかせっかく出ているものがどこへも検討材料で入ってこないんじゃないかというふうになるといけないから、1項目と2項目が出たら、ここへこれらの残りを付属させて、それで総合的に検討していくということをやっていくべきじゃないかと思います。7項目全体の中で意見の集約をしていければというふうに思います。

委員 今言うように全部やるというのは良く分かるんですが、決して10名出たのをやるっていてもそれだけやるわけではないんです。ただとっかかりとして、議論をしやすくするために項目を絞って、それからその中で例えば自然環境の中で交通問題が出れば交通問題をやればいいんです。違う問題が出ればそれらの問題をやればいいんです。べつに10人が選んだ自然環境だけをそれっきりでやるわけではなくて。

委員 それを言っているの。自然環境ということだけで大きくりにするのではなくて、ここには交通の問題もあるし産業の問題もあるしというので、結びつけていくことが大事ではないかと言っているんです。

委員 それはそうだけれども、まず協議会の話しを持っていく、とっかかりとして小さなものから大きなものへ発展していったほうが、大きな問題から小さな問題へ行くよりもいいではないか思います。大きな問題からやると、何を言っているのかこの問題から外れているよなと思うようなこともあるので、私とすればそういうほうが良いのではないかと思います。

委員 初めて協議会ができたわけで、それを私達だけで7項目全部をやるというのは1から7まですべて1か月に一個ずつ話しが出来ていけば一番いいんだと思うんですけど、時間的に絶対無理だと思います。1項目に絞って、私たちの後に続く地域協議会の方にも議論していってもらえるように、後の方にもバトンタッチしていかれるように議題をどんどん繋げていって、あまりこだけで終わらせるというのではなく、徐々にほかの議員、行政の人とも関わっていってもらえるように、次に選ばれた方にもこれを引続きやっていってもらえるようにしていくのがいいのではないかと私は思うんです。今はとっかかりとして、一番意見の多かったものからやっていったらどうかと思います。

委員 先ほど委員が絞るのを迷っているというのは当然だと思うんです。私も先ほどは1位を選んだ多いところからという話しをしましたけれど、私は商工会のほうから出ています。本当は全体的に考えなければいけないんですけども、商工会関連を一番に持っていってもらいたいということもあると思うんです。しかしながら、ここで話しを進めていくには一番多かったところから開いていかなければ、一番のものだけをやるじゃなくて全部やるんですが、そこから開いていくしかないんじゃないかなと。私も永住の町と書いたんですが、やはりこの地の人口が増えるようにやっていったほうが一番いいかなというふうに考えています。個々のご意見をやっていきますとなかなか進みませんので、まず一番多いところから、切り崩していったほうが進みやすいような気がしますでしょうか。

委員 私も同じです。前回の協議会の時にも、いったい何から始めましょうとい

うことで、でもそれが決まらないからアンケートをとりますということでしたよね。それでアンケートで一応こういう形で1位はどれ2位は何となりましたので、一番多かったのが環境問題ですよね、10人いましたけれど一番多い。だからやっぱり、一番多いところから先に入って、それからいろいろな関連があるということやっけていくということやっけて進んでいったら一番いいと私は思っています。グループは大勢だと細かい話し合いができないと思います。ですから、3つでもいいですが、2つくらいに分けて一つの問題を検討していったらいいんじゃないかと思っています。

片桐会長 委員先ほど迷っていたといっていましたけどどうでしょうか。

委員 1位が一番多かったのは確かに7番目の10人です。その次が5人で1番ですけれど、2位を見てみると一番多いのは2番が6人です。でそのほかは3人1人3人2人3人となるんですが、私が迷っているというのはそのところで、これは項目が一杯ありましたから、一つの項目に3項目書かれた方と、それから1項目2項目しかかかれなかった方もおいでと思うんです。だから15番までつれられた方もいればたぶん9番までしかつれなかった人もいます。私はこれは本来はいいと思いませんが、もしこれが7つしかなかったときに、ほんとうに7番が10人集まるのかなっていうところもちょっと問題かなと思うので、問題を絞ることは大事なんですけど、できれば委員がおっしゃっていたように大きな枠でくくったものを分けて、検討してエッセンスを出していくのもいいのではないかなと思うようになっていきます。

委員 私優先順位をつけるときにすごく迷ったんですね。自分が一番をつけたところが本当に一番なのかなっていう疑問もありました。今皆さんのお話を聞きながら迷ったんですけども、本当に環境だけでいいのか、それだけが中心になっていいのかなというのと、委員がおっしゃったように、大きな枠組みの中でいろいろな、7項目出たんだからやはりそれなりにそれを検討すべきじゃないかなという気持ちもあります。しかし7項目みんなやるのは順番にやるわけじゃなくて、話し合いの中にいろいろ出てくると思うんですね。その中で1位が環境で、2位が軽快な交通ネットワーク、せめて人との交流、人口増そこまでを考えた上で、1.2.3の範囲で項目として入れるのであれば入れてもらいたいというのが、その3項目はリンクしていることが多いので、という意見です。

委員 ちょっと繰り返しになるところもありますけれども、私はやはり議論を深めるという意味では、20人一度に話しをするのはなかなか難しいと思っています。同じテーマを20人で話しをするのであれば、グループ毎に分けて協議してそこで出たエッセンスを全体に投げかけてそれについてどう思うのかっていうことを繰り返すというような、議論を深めるような手法を考えたほうが良いと思っています。できれば、全体でやるのもいいんですけども、2つ3つあってありますけれども、3つぐらいの感じで分科会、分科会という表現がいいかわかりませんが、テーマに分けてそこで突っ込んだ話しをしてもらって、そのエッセンスを全体会で持ち上げていただいて、それをどうなんだとみんなで議論して、それを何度か繰り返すという議論を深めるということをしていったほうが良いんじゃないかと私は今でも思っています。やはりどうしても20人全体で中身を含めて共有しようということになれば、先ほどのようにグループ毎にディスカッションをやるとか、そういう手法を取り入れて深める工夫をしたいと思っています。それでそれが具体的に進めて、技術的というか理論的な話しで提案ですが、今皆さんの話しには乗っかってこないんですけども、議論した方向性なり

結論を、どう実現していくかってことが一番気になっていまして、突っ込んで話しをして、その中で話しが決まっても、それをどう実現するのかなんですね。そこを考えたときにやはり協働ということ、議会や住民との協働というのをしっかり仕組みを作っていないと実現できないと思っています。ここで決まった方向性、こうしようじゃないかと方向性が決まったのを必要であれば議会を通して、例えば書かせていただいたんですけど、住民自治条例なんていう件は、本当に大事な話で、これに地域協議会や住民が関わって、こうしたいああしたいということを実現するんだったら、どうしたって議員の皆さんと協働していかなければいけない話だと思っていますので、議員の皆さんとどう協働の場を作っていくかというしくみを考えないと実現できない。先ほどの環境の話もありましたけれど、環境対策におきまして、河川の整備ですとかを積極的にやっている自治会もあって、そういう自治会の取り組みやノウハウをみんなで共有して、じゃ環境の問題が大事だから丸子地域全体でとっかかりようよという方向性が決まったら、各自治会の人達と協力しあって、みんなでやっていく仕組みづくりというか、そのところも同時平行で議論をこの場であげていただきたいと思っていますが、皆さんどう思っているかわからないんですけども、というふうに思っています。ここに上がってきた具体的な内容を突っ込んで話しをすることと、それから、それを実現するために、どういう協働の仕組みづくりをするかという両方を同時平行で協議会の協議内容に入れていただきたいと思っています。

委員 今委員のような感じだと住民の皆さん及び議会の皆さんを巻込んでとこのように受け取れるんですが、実際はこの地域協議会っていうのはそこまで権限がないはずですね。協議会は住民の皆さんの現状を知る場であって意見表明とか提案はできますけれども実際の決定権というのはなにもないっていうふうに私は認識していますが。佐藤次長それでいいですね。

委員 私はそれは違うと思います。

委員 そういう観点からいくと、住民とか議会と一緒にやってやるっていうのは收拾つかなくなっちゃう、あまりにも手を広げすぎちゃって。地域住民の声を聴きましょう、はいここへ来て決めましょうという、それはちょっと無理だと思います。

佐藤次長 委員がおっしゃりましたとおり、地域協議会は条例に基づいて設定されております。その項目の中に任務の項目があります。地域協議会は対象地区に係る事項について市長その他の意見を聞くと言ういわゆる諮問に対するの答申をしていくという、これは前にも申し上げてございます。地域協議会は対象地区に係る問題について市長に対し意見を述べるができる、これが2番目の問題でございます。今論議しておりますのは、第6条の3項目目にあたるわけなんですけれども、地域協議会は対象地区に係る住民自治の推進や住民と行政との協働によるまちづくりについて調査研究を行うものとする。調査研究の範囲です。実施するのは住民自身の問題だということになっておりまして、協議会は調査研究までが任務となっています。

委員 私の認識ですが、調査研究ですけど話し合った中身を調査研究したのをどうするのかかなんですね。記録として残しておけばよいのかという話で、そういうことだったらつまらないですね。この地域協議会が新市の上田市を作る中でどういう役割を果たせばいいのかっていうのは、私達が決めることだと思っています。条例のうへだはそういうことで尺時定規に考えればそのとおりです。具体的にこ

の地域協議会が核となって何かの運動を起こすとかということにはできないと思います。ただ先ほどありましたように、住民自治を推進する、そのためにどうしたら良いのかっていうのを調査するのが任務で、その調査したことをこうしていったらいいじゃないかと提案していかなかったら意味がないわけです。その提案の方法としてはもちろん市長、市に対しても提案していくんですが、ここだけと市だけでやってもしょうがないので、やっぱり住民にも公表したりとかということを考えていくべきではないかというのが考え方です。委員がおっしゃるように、そこまでつっこんで自分達が動いてやるということは私達の任務ではないとは思いますが。ただ私達も志向性として住民自治を育てて丸子地域をどうするの、こっちへ持っていこうよということを考える場ですから、具体的にどうやって住民の人達と共有するのか、議会と共有するのかっていうしくみのことを言っているんです。例えば環境問題についてこれは大事だからこういう方向で行きませんかという、住民自治に関しては住民自身が環境に関わって動くことが大切ですから丸子地域としてはこういうことをやりませんかと調査研究の結果地域振興で必要だとしたら、それを実際に提案していく手段として自治会の皆さんも出ているわけですから自治会の皆さんと連絡を取り合って、ほかの自治会でもこの自治会の取組みのようなことをやっていくっていうようなことをみんなで協議してもらえないとか、実行は各機関や団体や自治体だと思います。そんなふうに考えています。

委員 今は、残りわずかな期間でこの会の進め方をどうするかがテーマですよ。そのテーマが決まったら今の委員の言っているようなことを具体的に話し合っていくべきだと。今は、進め方を決めていただく、それが主題になっているわけですから、ぜひそういうことで進めていただきたいと思います。

片桐会長 それでは、皆さんから大変活発に意見をお出しいただきましたけれども、皆さんの意見を私なりにまとめてみたいと思います。もし異論がございましたら申し述べていただきたいと思います。皆さんの意見を聞いていますと、アンケートで答えていただきました優先順位の1位を協議会としてのテーマ、議題として、そして同じテーマを2つの分科会に分けて協議していったらどうかと受け止められましたけれどもどうでしょうか。

- 「意義なし」との声あり。 -

片桐会長 よろしいでしょうか。 -

- 「はい」との声あり。

片桐会長 それでは、今回はこの環境づくりについてみなさんとテーマを決めて話し合っ行ってきたいと思います。大変活発に意見をお出しいただきまして、ありがとうございました。丸子地域協議会が具体的に取り組む課題としては最初に方向付けが出来たんじゃないかということで、私も大変感激をいたしているところでございます。

委員 会長すいません一つだけ。1位の話しなんですけれど、資料を見ると自然環境が大事だと言っている方と市民との協働という形で子育ての仕組みとか子育ての環境ということですから、産院の問題とかも含まれていると思うんですけれども、全部ひっくるめてということですか。

片桐会長 そういうことです。

委員 はい、わかりました。

委員 会議の前に事前に事務局に対して、これこれこういう資料を用意してほしいというチャンスを与えていただきたい思います。ぜひお願いしたいと思います。

佐藤次長 はい。時間をいただければ。

(2) 会議の進め方について

自治センターだよりについて

片桐会長 はい、それではその他。

中村主査 武石地域では資料にある「武石地域自治センターたより」第1号を5月に発行しました。これは武石地域協議会で発行していったらどうかという意見を市長に出した経過で、5月から2か月に1回ずつ発行する予定となっています。丸子地域については予定ありませんが、どうしていかご意見をいただきたいと思います。

片桐会長 ただいまの事務局の説明でご意見ありますでしょうか。

委員 製作は丸子地域自治センターの地域振興課で本体を作られるという理解でよろしいのでしょうか。

横井課長補佐 ただいまのご質問ですが、広報の直接の担当は今いないですが、扱い取りまとめは地域振興課となります。武石では聞いたところ、たよりを出す段階で編集委員を2名地域協議会の委員から出していただいて、取りまとめは地域振興課でやっているとのこと。

片桐会長 編集委員は2名ですか。

横井課長補佐 はい、発行するとすればですが。

委員 武石で発行したからって、丸子でやるっていったときに、ちゃんと予算をつけてくれるんですか。

片桐会長 ですからこのセンターだよりが必要かどうかってことですよね。まずはそのところで、武石は出されましたけれども、丸子が必要かどうか必要なければこれで結構です。必要ないですか。

委員 読まない。

委員 さっきの話を蒸し返すようで申し訳ないんですがね、こういったものも、ここで議論して大事だなと思ったことを、じゃどうやって住民と分かち合おうかということの一つの手段思っています。武石ではそういったことを分かち合うのも必要だからセンターたよりを出したほうがいいんじゃないのと決まったかと思うんですけれど、この地域でもどうやって分かち合おうか共有しようかということで、読まないから、駄目だよって、じゃほかの手段は何っていう話しになると思うんです。ホームページに出してあるからそれでいいのかっていうと、あれは読まないと思うんです。ですから、さっきから言っているのはこの中で住民と課題を分け合ったりとか協働をするだとか議会と分け合ったりするのが必要だっていうんだったらどうやってしくみを考えましょうかということで、少しでもそのしくみの一つになるんだったら発行すればいいと思うんです。予算があるのであれば、ぜひ良いことだと思います。先ほども言いましたけれど、議会とも分かち合うのが必要であれば議会と定期的に話しをする場を持ちましょうかとか定期的にやってもらって、これどうなったのか報告いただいてないんですけども、議会の皆さんと定期的と話し合い、ミーティングの時間をとれないかかと思っています。で何とか読んでもらうための手段を工夫するというところで、各団体の中でもアイデアを出し合って読んでもらうための手法を考えるということだと思うんですけれども。

片桐会長 次回までということではよろしいでしょうか。

それでは本日の議事はこれをもって終了といたしたいと思います。

4 報告事項

(1) 行財政改革大綱について

武井委員 資料「行財政改革推進委員会報告」に基づいて説明

(4) 丸子地域自治センターの重点目標について

佐藤次長 資料「丸子地域自治センター平成19年度重点目標」について説明

(5) 都市計画マスタープランアンケート結果

佐藤次長 資料「まちづくりアンケート調査結果概要(丸子地域抜粋)」について説明

(2) 陽寿荘・徳寿荘の移転について

下村健康福祉課長 資料「養護老人ホーム・陽寿荘及び特別養護老人ホーム・徳寿荘の移転・改築に伴う概要」について説明

(3) 上田市廃棄物処理審議会の答申について

柳沢市民生活課長 資料「答申書」について説明

5 その他

片桐会長 その他について事務局お願いします。

中村主査 7月2日(月曜日)午後7時から「市民まちづくり懇談会」への参加をお願いします。次回の地域協議会の日程は、7月19日(木曜日)午後1時30分から4階講堂で開催したいと思います。

片桐会長 よろしくお願いいたします。

片桐委員 それでは以上を持ちまして本日の地域協議会を閉会とします。大変ご苦労さまでございました。